

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 平3-201952

⑬ Int. Cl. ^o
A 23 L 1/06

識別記号 延内整理番号
2121-4B

⑭ 公開 平成3年(1991)9月3日

審査請求 有 請求項の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 多層ゼリー食品

⑯ 特願 平1-340896
⑰ 出願 平1(1989)12月28日

⑱ 発明者 中西 亘 東京都新宿区西新宿3丁目11番18号 マンサード角筈601
⑲ 出願人 株式会社オブテック 東京都新宿区西新宿3丁目11番18号
⑳ 代理人 弁理士 旦 篓之 外1名

明細書

1. 発明の名称 多層ゼリー食品

2. 特許請求の範囲

カップ内に果実や野菜のジュースを良質の白質であるゼラチンにてゲル状にしたもの多層化し、かつ、口間に混同しないように段階化することを特徴とするゼリー食品。

3. 発明の詳細な説明

(歯科上の利用分野)

本発明はカップ内にカロリーや熱量の異なるゼリーを段階段階化して充填した多層ゼリー食品に関するもの。

(従来の技術)

従来、市販されているゼリー食品は、砂糖や着色料等の添加物と共に草抽出物などで構成されているものが一般的であった。また、ゼラチンを使用したゼリーもあるが、その殆どは单一原料で製造されたものであった。

(発明が解決しようとする問題)

そして、前記砂糖や着色料等の添加物と

草抽出物とで構成されているゼリー食品は栄養価は殆どなく、單なる嗜好物としての食品であり、また、ゼラチンを使用したりゼリー食品の場合には單一原料であるため、栄養バランスを考慮したものではなかった。

本発明は前記した問題点を解決せんとするもので、その目的とするところは、果実や野菜のジュースを良質の白質であるゼラチンにてゲル状にしたものを段階化して口入者の体内に合わせた段階段階化して段階化され、また、ゼリーの口間に混同しないように段階化されているので、見た目に良く食欲を増進させる多層ゼリー食品を提供せんとするにある。

(問題を解決すための手段)

本発明の多層ゼリー食品は前記した目的を達成せんとするもので、その手段は、カップ内に果実や野菜のジュースを良質の白質であるゼラチンにてゲル状にしたものを多層化し、かつ、口間に混同しないように段階化した

ことである。

(作用)

前記した如く構成した本発明の多口ゼリー食品にあっては、個々の持つ原料の栄養素をバランス良く選択組み合わせることにより、スポーツの前後に対し、あるいは貧血症に対し、虚弱体质の人に対しした食品を提供するものであり、また、顧客の口間に混同しないことから、外観的美感も良好なものである。

(発明の実施例)

第1図は本発明の多口ゼリー食品の正面図を示し、後述するカップ内に購入者の体間に適した原料を含むゼラチンをゲル状にしたゼリーよりが、口間に混同しないように充填されている。

次に、本発明の多口ゼリー食品を製造するための製造方法を図面と共に説明する。

第2図において、1は第4図に示す如き構成のパーソナルコンピュータ等のコントロー

ラ、1は該コントローラよりの指令によってカップ内に複数個頭の所含ゼリーを充填するためのゼリー充填装置、2は前記コントローラとゼリー充填装置2とを連絡する通信ケーブルである。

次に、ゼリー充填装置2の詳細を第3図と共に説明するに、このゼリー充填装置2は6つのブロックに仕切られている。即ち、大きさの違うプラスチック製のカップ1が多頭個収納されているカップストッカ1と、果実や野菜のジュースを良質の蛋白質であるゼラチンにてゲル状にした原液を充填したボトル1が多頭個収納された(図示のものは16個頭)ボトルストッカ2と、前記カップ1用のキャップ6を収納したキャップストッカ3と、カップ1にキャップ6を被せるためのキャップ装置部4と、カップ1に充填したゼリーの内容を表示するラベルをカップ1の表面に貼付するラベル貼付部5および、ゼリーが充填され、かつ、ラベルが貼付された製品を収納す

る製品ストッカ4とが形成されている。

そして、前記したカップストッカ2、ボトルストッカ3における原液注入部、キャップストッカ4およびキャップ装置部4の部分は冷却エリアとなっている。

また、前記したボトル1は内部原液溶解のために冷却装置にて冷蔵庫に保持されると共に、ボトル1には口蓋の入力間違いをなくすために、口蓋名の他に口蓋名コードを記化したラベルが貼付され、かつ、ボトル1からカップ1への口蓋の注入は公知のチューブ注入方式を採用している。

さらに、カップストッカ1より移送されるカップ1は、自走チェーン等の適宜搬送手段によってボトルストッカ2の原液注入部内を原液1から原液16の方向に順次移送されると共にキャップ装置部4を介してラベル貼付部5に移送され、このラベル貼付部5から製品ストッカ4に移送されるものである。

また、各ボトルストッカ2の原液注入部に

は、第6図に示す如く注入された原液を早期に圆形化するための冷気噴出パイプ1が取付けられている。

次に、ゼリー充填装置2を制御するための回路を第4図のブロック図と共に説明するに、必要なデータ、例えば、ダイエット用あるいは貧血用等の各顧客メニューの中から精選するメニューを選択し、また、前記原液の中から購入者が好む原液を選択しないようにするためのキーが記入されたキーボード8と、前記したゼリー充填装置2における各部位の運動状態を検出するセンサ1と、前記キーボード8からの入力とセンサ1からの入力を交けて後述するゼリー充填装置2内の運動機制へ運動信号を送出する制御回路10と、ダイエット食品に対する低カロリー用のテーブル、スポーツの前後に対するカリウムやナトリウムを多く含んだスポーツ用テーブル、低血圧の人に適する成分を多く含んだ低血圧用テーブル、子供や病人に適するカルシウムやビタ

ミン C を多く含んだ直腸体質用テーブル等の如く、予め定められたメニューに対応して直腸の原液から選択された原液の量、缸頭および原液の充填順序が記録されている ROM II と、前記制御回路 10 からの出力を受けてボトル 5 からカップ 4 内に所定量の原液を充填するボトル選出手段 12 と、制御回路 10 からの出力を受けてカップ 4 を順次移送する移送手段 13 と、制御回路 10 からの出力を受けて前記冷却パイプ 7 より冷気を吹出させるための冷気注入手段 14 と、制御回路 10 からの出力を受けて移送されてきたカップ 4 の表面にラベルを貼付するためのラベル貼着手段 15 およびメニュー等を表示するディスプレイ 16 とから構成されている。

次に、第 5 図のフローチャート図と第 6 図の流れ動作図と共に動作について説明する。

ディスプレイ 16 には常時メニューが表示されているので、操作者は購入者の希望を聞いてキーボード 8 より所望のメニューを選択す

路 10 はカップ 4 が 1 号目のボトル位臓まで到達したか否かを監視し（ステップ S1）、カップ 4 が到達したなら前記テーブルに従って 1 号目のボトルから原液を注入しないで、冷気注入手段 14 を動作させてカップ 4 内に冷気のみを注入する（ステップ S1、第 6 図(d)）。

冷気の注入が終了するとカップ移送手段 13 が 2 号目のボトル 5 に向かってカップ 4 の移送を開始し（ステップ S2）。制御回路 10 はカップ 4 が 2 号目のボトル位臓まで到達したか否かを監視し（ステップ S10）、カップ 4 が到達したなら前記テーブルに従って 2 号目のボトル 5 から原液を所定量注入する（ステップ S11、第 6 図(e)）。

そして、2 号目のボトル 5 からの原液の注入が終了すると、3 号目および 4 号目のボトル 5 に向かって前記したステップ S6～S8 の動作が行われる（ステップ S12、S13、第 6 図(d)、(e)）。

る。ここで、制御回路 10 はメニューが選択されたか否かを監視し（ステップ S1）、前記した如く操作者によってメニューが選択されると、ROM II のテーブルからメニューに応じたテーブル（原液の缸頭と量および原液を充填する順序）を選択する（ステップ S2）。次いで、制御回路 10 は前記選択されたメニューから購入者がほしいな原液があり、それが削除されるか否かを監視し（ステップ S3）、削除された原液がある場合には、その原液と同じ栄養素を含む他の原液を選択して前記テーブルの内容を一部修正する（ステップ S4）。そして、テーブルが決定されると、制御回路 10 は前記テーブルによって決定された原液の量に応じた大きさのカップ 4 をカップストッカ 21 から選択してカップ移送手段 13 によって送出する（ステップ S5、第 6 図(d)）。

カップ 4 を受けたカップ移送手段 13 は、該カップ 4 を 1 号目のボトル 5 の位臓に向かって移送を開始する（ステップ S6）。制御回

次いで、カップ 4 を 5 号目のボトル 5 に向かって前記したステップ S1、S10 の動作が行われ（ステップ S14）、カップ 4 が 5 号目のボトル 5 の位臓に到達すると 5 号目のボトル選出手段 12 を動作させ少量の原液を注入する（ステップ S15、第 6 図(f)）。原液の注入が終了すると冷気注入手段 14 を動作させて、注入された原液を固化する（ステップ S16、第 6 図(g)）。さらに、原液の固化が行われた後、5 号目のボトル 5 から所定量の原液を注入する（ステップ S17、第 6 図(h)）。

以下、前記した動作を繰り返し行い、テーブルに従って選択された原液のみを順次注入を行うものである（ステップ S18～S20、第 5 図(h)～(l)）。そして、全ての原液がテーブルに従って注入し終わると、投冷却が行われ原液の固化が行われる（ステップ S21、第 6 図(i)）、次いで、キャップストッカ 21 からキャップ 4 が取り出されてカップ 4 に被せられる（ステップ S22、第 6 図(j)）、キャップ

6が被せられたカップ4はラベル貼付部2dに移設され、原液の紅茶、果物茶の量等が記載されたラベルが貼付される(ステップS23、第5図⑩)。

なお、前記した実施例にあっては、5層のゼリーが充填されたものを示したが、この範囲は何層であっても良い。

また、原料の選択メニューによって行わなくとも、操作者や購入者の希望によって選択しても良い。

(発明の効果)

本発明は前記したように、カップ内に果実や野菜のジュースを良質の蛋白質であるゼラチンにてゲル状にしたものを多層化し、かつ、層間が混同しないように収容したゼリー食品であるので、購入者の状態(体調)に適したもの提供で販売ものであると共に、別々の味を順次味合うことができ、また、収容させるゼリー間が混同していないことから、見た目にも美しく食欲をそそる等の効果を有する

ものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の多層ゼリー食品の正面図、第2図は多層ゼリー食品を製造するための製造全体の側面図、第3図は同上の供給部の俯観平面図、第4図は該部を側面するためのプロック図、第5図はフローチャート図、第6図は動作状態を示す説明図である。

1…コントローラ、2…ゼリー充填装置、3…カップ、4…ボトル、5…キーボード、10…倒却回路、11…ROM、12…ボトル駆動手段、13…カップ移動手段、14…冷気注入手段、15…ラベル貼付手段。

特許出願人 株式会社 オブテック

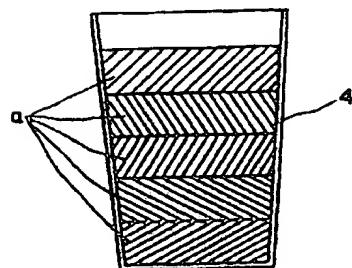
代理人 旦 順



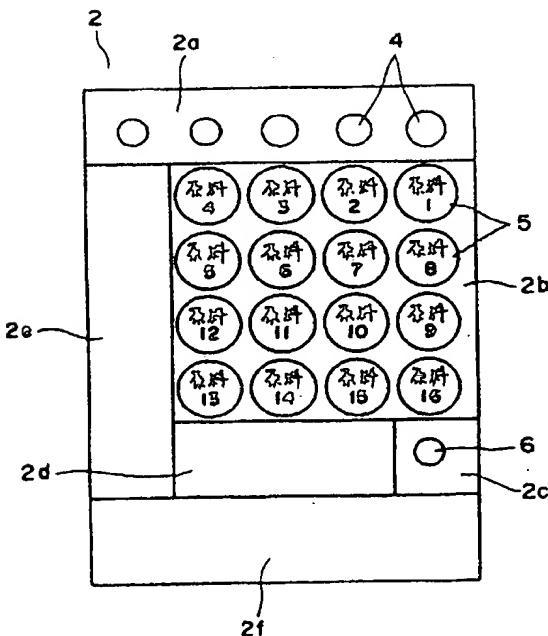
岡 高 稲 功



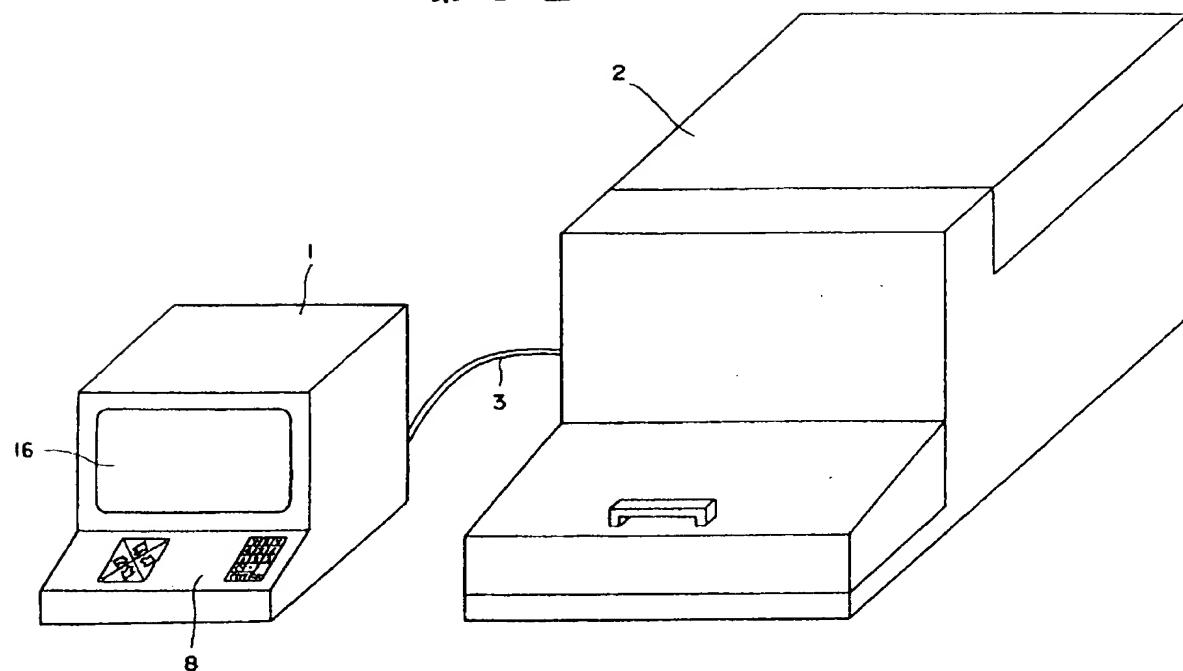
第1図



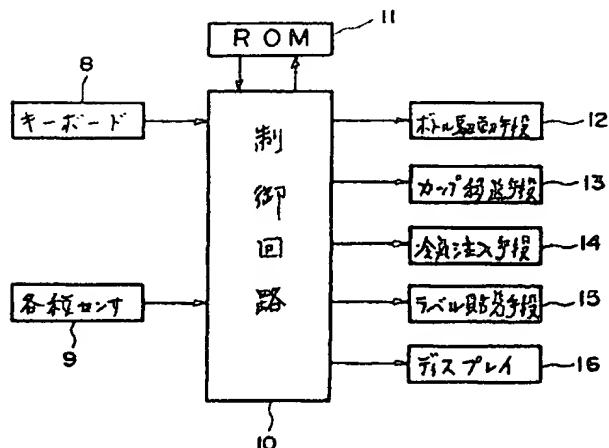
第3図



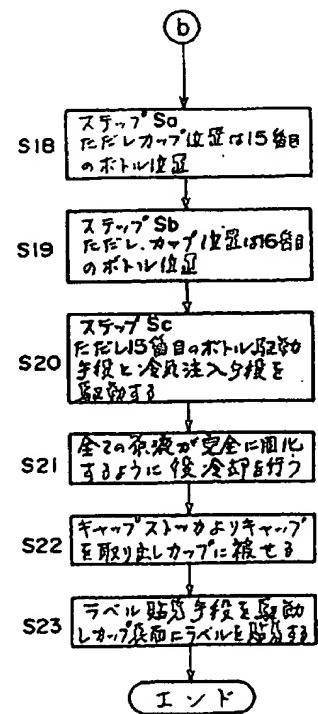
第2図



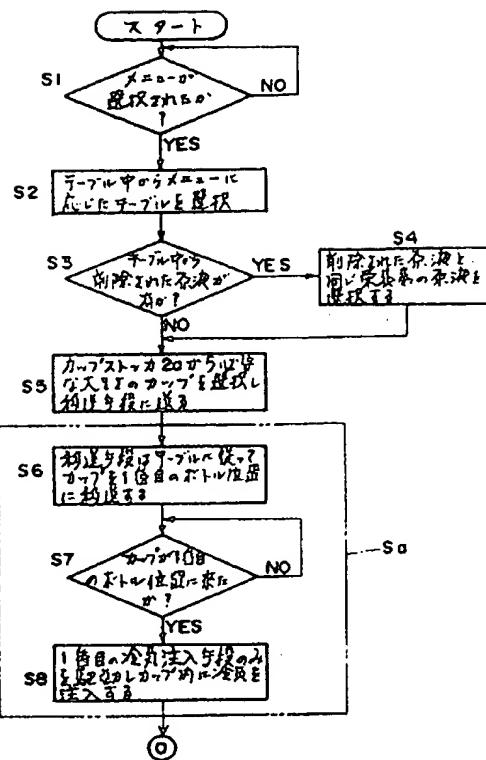
第4図



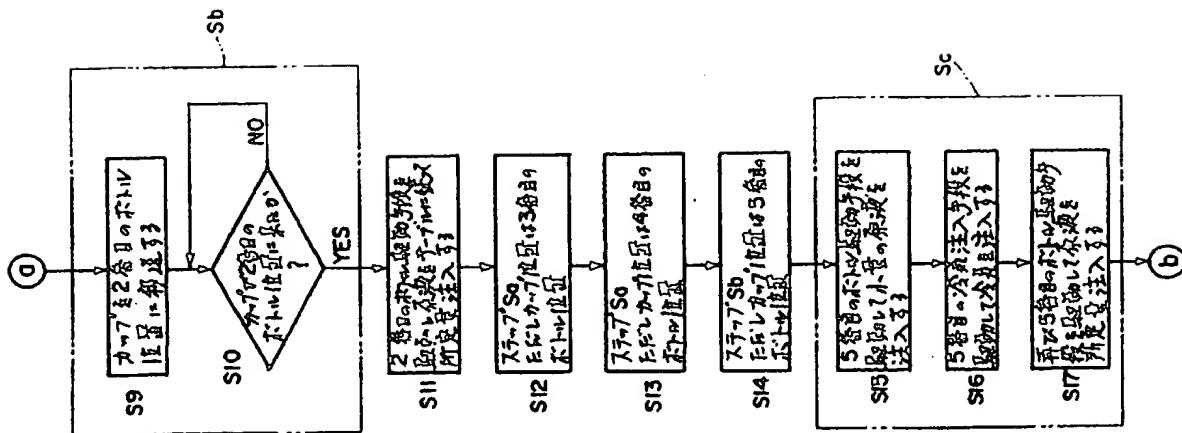
第5図(c)



第5図(a)



第5図(b)



第6図

